

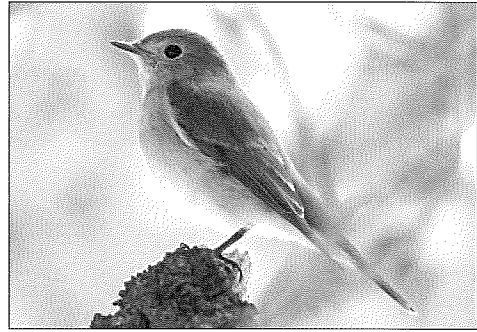
オジロビタキの越冬個体に対する考察

長嶋宏之(蓮田市)

1 はじめに

今年1月4日「さぎ山記念公園探鳥会」の折、オジロビタキが出たのは記憶に新しい。

このオジロビタキについて、『日本鳥類目録改訂第6版(以降第6版)』には、亜種オジロビタキ(*Ficedula parva albicilla*)とは別に、「検討中の種・亜種」として *Ficedula parva parva* (亜種ニシオジロビタキ) が記載されている。さらに、大西敏一氏(『日本の野鳥590』の解説者)からは、「日本で越冬するオジロビタキの大半はニシオジロビタキであると考えられる」との一言をいただいた。



亜種オジロビタキ 1W 於青島 2008.10 大西敏一

では、「さぎ山記念公園のオジロビタキはどちらの亜種なのか」「過去、埼玉県内で見られたオジロビタキはどちらなのか」。そこで、友人諸兄から提供していただいた写真に基づき検証を試みた。結果を以下に報告する。

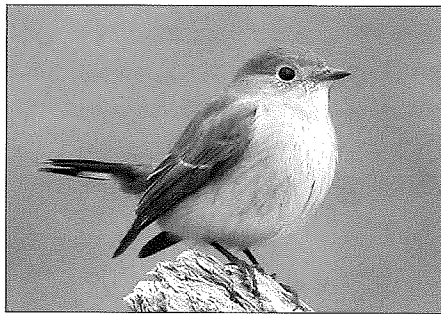
2 亜種オジロビタキと亜種ニシオジロビタキの主な識別ポイント

図鑑や資料を基に、望遠鏡や写真によって観察できる主な識別ポイントを表-1にまとめた。なお表の中では、亜種オジロビタキを東、亜種ニシオジロビタキを西とした。

表-1

(1W: 第1回冬羽、1S: 第1回夏羽、2S: 第2回夏羽)

嘴	西	雄雌年齢に関わらず下嘴が肉色で先端だけが黒く、基部から先端に向かい徐々に細くなる(参考例: コサメビタキ)。
	東	雄雌年齢に関わらず嘴が黒い。下嘴の基部だけが小さく肉色の個体がたまにいる。基部から先がほぼ同じ太さで、先端で細くなる。いわゆる Bulky な感じ。
喉	西	雄は2Sで喉がオレンジ色になり、胸まで達している。成鳥雌と1Wはバフ色味が強い。
	東	雄は1Sで喉がオレンジ色になり、喉の部分だけがオレンジ色(ただし、モンゴルには胸までオレンジ色の個体がいいて、話題となっている。P4参照)。成鳥雌と1Wの喉は白色味が強い。
胸と腹	西	成鳥雄の喉を縁取る灰色の胸帯が無い。腹部にバフ色味がある。
	東	成鳥雄の喉を縁取る灰色の胸帯がある。腹部に灰褐色味がある。
上尾筒	西	最長上尾筒の色が雄雌とも幼鳥のときから中央尾羽よりも淡い。
	東	最長上尾筒の色が雄雌とも幼鳥のときから中央尾羽よりも黒い。
翼帯	東西	成鳥は目立たないが、1W~1Sは雄雌とも大雨覆に褐色の翼帯がある。
三列風切	西	淡褐色の羽縁があり、羽先にバフ色味が強い小さなクサビ形の斑がある。磨耗していると、見分けが難しい。三列風切の羽縁は次列風切の羽縁と同じ淡褐色をしている。
	東	羽先のクサビ形斑は大きめで、クリーム色味を帯びた白色もしくは淡いバフ色。磨耗していると見分けが難しい。三列風切の羽縁は、次列風切の羽縁よりも白く目立つことが多い。
成鳥雄の頭部の色	西	頭部に灰色味がある。頭頂と後頭も灰色味を帯びる。
	東	褐色味がある。



亜種オジロビタキ 1W 智光山公園 2009.12
堀 利行



亜種ニシオジロビタキ 1W 千葉県松戸市 2011.2
三間久豊

3 埼玉県内での識別結果

識別にあたり多くの友人より写真の提供を受けた。観察場所は埼玉県内で7箇所、埼玉県外の国内は12箇所である。さらに、亜種オジロビタキの特徴を把握する為に、外国の4箇所で見学した写真の提供を受けた。この提供された写真593枚の中から識別用に62枚を選び、識別を試みた。本稿では県内での識別結果のみを表2に示す。

表2

(Ad:成鳥)

No.	撮影場所(年月日)	年齢	性	識別ポイント						識別結果
				嘴	喉	上尾筒	胸腹	翼帯	三列風切	
1	久喜菖蒲公園 (031227)	1W		○	○	○	○	○		西
2	久喜菖蒲公園 (031227)			○	○		○	○		
3	久喜菖蒲公園 (031227)			○	○		○			
4	岩槻城址公園 (040128)	1W		○	○		○			西
5	岩槻城址公園 (040128)				○			○		
6	岩槻城址公園 (040128)			○	○		○	○	○	
7	岩槻城址公園 (040128)				○	×	○			
8	岩槻文化公園 (041218)	1W		○		○		○	○	西
9	岩槻文化公園 (041218)			○	○		○			
10	岩槻文化公園 (041218)			○	○		○			
11	大宮市民の森 (060211)	Ad	♀	○	○		○	○		西
12	大宮市民の森 (060325)			○	○	○	○			
13	大宮市民の森 (060325)			○	○	○		○		
14	智光山公園 (091218)	1W				×		○	○	東 *1
15	智光山公園 (091218)			○		×		○	○	
16	智光山公園 (091218)			○	○		○	○		
17	智光山公園 (091218)					○	○	○	○	
18	さぎ山記念公園 (101227)	1W		○	○	○				西
19	さぎ山記念公園 (101227)			○		○		○	○	
20	さぎ山記念公園 (110103)			○		○		○		
21	さぎ山記念公園 (110106)			○	○		○			
22	寺尾調節池 (110117)	1W		○	○	○	○	○	○	西

○：識別結果の根拠となった点、×：識別結果と矛盾する点（違う写真では○になっていることもある）。

*1: 上面に灰色味が少なく、下面も白っぽい写真があり判断に不安が残る。今回は東と判断したが、今後、更に明確な写真や地鳴きの声が提供された場合、変更の可能性もある。

4 検証結果

- ① 埼玉県内で観察された個体の内、智光山公園で2009年12月に観察された1個体が亜種オジロビタキ 1W の可能性が高い。その他の観察場所の6個体は亜種ニシオジロビタキであった。
- ② 県内における越冬期のオジロビタキは、7箇所の観察場所中6箇所が亜種ニシオジロビタキであり、大西氏の考えと一致した。

5 考察及び課題と問題点

- ① 写真による識別は迷う事が多くあった。今後更に識別に適した写真や地鳴きの声の提供があった場合は、識別結果の変更もありうる。
- ② 寄稿するにあたり、県外や中国大陸の東側と日本海側の島嶼との比較、国外でのオジロビタキの検証も行った。発表は別の機会に譲るが、「国内における越冬期のオジロビタキはその大部分が亜種ニシオジロビタキである」との説がより確実になるものとする。

6 その他

- ① 最近の研究では亜種オジロビタキと亜種ニシオジロビタキはそれぞれ独立種であるとの説がある。
- ② 最近の研究では亜種オジロビタキと亜種ニシオジロビタキは地鳴きがはっきり違うので、鳴き声で識別できるという説もある。亜種オジロビタキ：「ジジジ」「ジリジリジリ」、亜種ニシオジロビタキ「ビティティティ」「ビジジジ」

7 お世話になった友人(敬称略)

この稿をまとめるに当り、大西敏一氏、三間久豊氏には有効な助言を頂くなど、大変お世話になりました。また、下記の29名の友人が写真や資料を提供して下さいました。誌上を借りてお礼申し上げます。

Bill Man (文権益)、Kurdiukov Alexey、浅見徹、岩田弘之、榎本秀和、海老原美夫、大西敏一、太田博、門脇進、川内博、北野寿美、久保田忠資、小林昌夫、小峯昇、今野紀昭、酒見希代子、高山直子、名尾良英、長野誠治、祢津英彦、藤掛保司、古江之人、星 進、堀利行、松原卓雄、松村禎夫、三間久豊、山田東二、米澤正勝

《 引用文献 》

Christ Cederroth et al. (1999) Taiga Flycatcher *Ficedula albicilla* in Sweden: the first record in western Europe

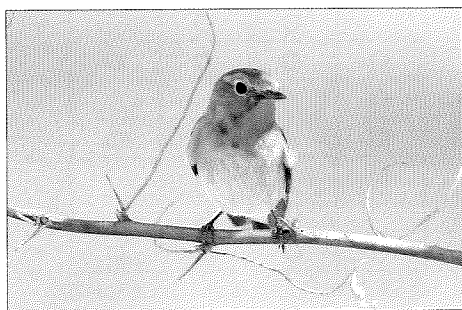
Lars Svensson (2010) COLLINS BIRD GUIDE 2ND EDITION. Trento. Italy

真木広造・大西敏一(2000) 日本の野鳥 590 平凡社 東京

Mark Brazil (2009) Birds of East Asia. Princeton Univ. Press, London.

日本鳥学会(2000) 日本鳥類目録改訂第6版 日本鳥学会 帯広

茂田良光(2008) オジロビタキの分類・最新情報 BIRDER 第2巻第5号: 48-48



亜種オジロビタキ Ad♂ モンゴル 2009.5. 三間久豊